

280 「チームの魂」

こんにちは。塾長の大井です。

9期生受験戦記第2回です。

それが4年生からTOPに入会したKSさんとRさんでした。どのクラスにもそのクラスを引っ張り、ゆくゆくはそのクラスの魂となっていくようなお子さんが存在しますが、9期生はまさにこの2人がそんな存在でした。

Rさんは開成に劇的合格した6期生Tさんの妹で、努力家でリーダーシップもあったお兄ちゃんとはまた違う美質を持っていました。まるでジブリの世界から出てきたような素朴な女の子で、虚栄心や背伸びなどが一切なく、本当に純粋で心のまっすぐなお子さんでした。気立てはやさしく性格もおっとりしていましたが、その反面とても強い芯を持っていました。当初、本人のこのおっとりした性格から、お母さんは日々全力での競い合いが求められるTOPでやっていけるのかと初日は少し心配されている様子でした。でも体験したその日から、Rさんはその不安を吹き飛ばすような伸び伸びとした姿勢を見せていま

した。体験初日からここで一生懸命やれば必ず自分は大きく成長する！と感じた様子で、言われた通りに板書を写し、言われた通りに考えようとするその素直さが、後の大きな成長へとつながっていきしました。幼さが目立っていたクラスの中であって、彼女のこの凛とした学びの姿勢は、クラスメイトへの大きな規範となりました。

同時期に入会した KS くんもとても人懐っこく素直な性格でした。その幼さから国語は大変苦手だったのですが、とにかく真似しようする力が高く、大井流田宮流を吸収して自分のものにしようという姿勢が際立っていました。とはいえ、国語力の低さはかなり根深いもので、この絶望的にも思えた苦手をいかに彼が克服していったかをここに記したいと思います。

天性のエリートがその能力で最短距離を駆け抜けるという合格は、中学受験をするお子さんのごくごく一握りに過ぎません。

中学受験で御三家を始めとした難関中に合格する生徒たちの多くは、その弱点を突きつけられ、時に途方に暮れながらも、その弱点と向き合って、自分の殻を破って克服していく。そんな泥臭い営みを積み重

ねた果ての勝者に他なりません。KS さんの受験は、まさにそんな下
克上受験の典型でした。

9 期生はこの 2 人を新たな仲間に加え、その長い長い受験という道の
りを歩んでいました。

(第 3 回につづく)

2025 年 7 月 20 日

大井 雄之